

◆ 環境安全本部 メールマガジン ◆ No. 153 ◆

~

2024. 7. 9(隔月発行)

バックナンバーは[こちら](#)

第2回環境安全衛生スローガンコンテスト 理事賞

「まあいいか」 危険を招く その油断



■ 7月・8月の安全管理標語 ■

事前準備を万全に、充実した夏を過ごしましょう！

◆気象や体調に気を付けながら野外活動を実施しましょう

夏季休暇中、フィールドワークや課外活動に出掛ける予定のある方も多いのではないでしょうか。充実した時間を過ごすため、安全にも十分に気を配って活動を実施してください。

○熱中症への備え

熱中症は、炎天下での長時間の活動や水分・塩分不足によって発症します。フィールドワーク等、野外での活動を行う際には、改めて基本的な対応を確認しましょう。厚生労働省のサイトには、多言語記載のリーフレットも掲載されています。ご活用ください。

※（参考）厚生労働省.“熱中症予防のための情報・資料サイト”. 厚生労働省.

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/nettyuu/nettyuu_taisaku/

○水難事故への備え

7月4日は「東京大学安全の日」です。平成17年に本学構成員が調査中の水難事故で死亡した事故を受けて制定されました。二度と痛ましい事故が起こらないよう、体調管理、天候のチェック、万が一溺れた時の対応の確認など、事前の備えを万全にしてください。活動中であっても、天候や体調によっては計画の変更、中止をためらわずに決断してください。溺れた人を見つけた時の通報先は、監視員（海水浴場の場合）、110（警察）、119（消防）、118（海上保安庁）です。

溺れた人を発見した場合でも、助けるためにすぐに水に入るのは危険な行為です。自分の身の安全を第一に、道具を使用するなどの方法で救助を試みてください。また、万が一野外活動で事故が起きた場合は必ず責任者へ連絡をしてください。活動の責任者にあたる方は、出発前には連絡体制を確認することを忘れないようにしましょう。

○「野外活動安全衛生管理・事故防止指針」をご活用ください！！

環境安全本部が発行している「野外活動安全衛生管理・事故防止指針」(第5版)では野外活動で注意するべき点、知りておくべき点をまとめています。野外活動を行う際には是非ご一読ください。

※学内限定公開です。冊子での購入を希望される方は、環境安全課安全企画チーム（kankyoanzenkikaku.adm@gs.u-tokyo.ac.jp）にご連絡ください。

★環境安全全般のポスター・通知・資料は東大ポータルからご覧いただけます。ご活用ください。

<https://univtokyo.sharepoint.com/sites/EHS_portal>

=====★5・6月に報告のあった東大の事故事例★=====

□注意を要する事故（！）

- ・インキュベーターを再稼働した際に、蛍光灯の安定器の経年劣化で回線がショートした。24026Nd

火災が疑われる事象が発生したにも関わらず、消防への通報・相談を即座に行わない事例が大変多いです。コンセントの焼損を含め、疑わしい事象が発生した際には自己判断で対応しないよう、徹底してください。

□実験中・作業中等の事故

- ・実験装置の解体作業中、ネジを回す反動で切りっぱなしのステンレス板に臀部が接触し擦過傷を負った。[24022F](#)
 - ・約 80°C のオイルが入ったオイルバスを片付け中、コードが引っ掛けたためバスが傾きオイルが両手にかかり、2 度の火傷を負った。[24028F](#)

□移動中の事故

- ・自転車で通勤中、段差で転倒し肘骨折。[24029J](#)
 - ・徒歩で帰宅中、構内の横断歩道で転倒し左肩を骨折した。[24038J](#)

※事故詳細はこちら→「[事故災害事例一覧](#)」